

第206回 生存圏シンポジウム

大震災から考えること

「木質構造に着目して」

この大震災は、建築単体というよりも、都市のあり方を考えさせられるものであった。しかし、都市を形成する個々の建物の安心・安全は、都市・住民の基盤として重要な課題である。本シンポジウムでは、個々の建築物である木質構造の安心・安全に着目し、様々な角度から震災に関する適切な理解を深めることを目指す。

日時:2012年6月28日(木) 13:30-17:40

場所:京都大学生存圏研究所 木質ホール3階

参加費:無料

プログラム

- 13:30-13:35 開会の挨拶 東京理科大学工学部 助教 神戸 渡
13:35-14:20 「地震動による木造建築物の被害とその要因」
森林総合研究所 主任研究員 青木謙治
14:20-15:05 「浦安市における液状化被害」
京都大学防災研究所 准教授 田村修次
15:05-15:15 休憩
15:15-16:00 「強震動とその生成メカニズム」
京都大学防災研究所 助教 浅野公之
16:00-16:45 「木質建築物の津波被害と耐津波性能」
建築研究所 主任研究員 中川貴文
16:45-16:55 休憩・会場設営
16:55-17:35 パネルディスカッション パネラー:上記演者、南 宗和(里仁舎)
17:35-17:40 閉会の挨拶 京都大学生存圏研究所 助教 森 拓郎
18:00- 討論会 (参加費:3000円)